

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101119		
法人名	有限会社 浅善		
事業所名	グループホーム出愛荘		
所在地	滋賀県大津市際川4-13-6		
自己評価作成日	令和元年10月12日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成31年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業開設以前より事業者代表が自治会役員で地域社会と関わり、また15年間にわたって母親の介護にもあつた経験を通じ、「施設」ではなく高齢者が最期まで自然体で暮らせるような「住まい」を目指しております。また職員一人ひとりの個性を尊重し「自然体」のケアで利用者、ご家族、地域の方と人間関係を築いていきたいです
 ・出愛荘近所の利用者様が多く、ご家族様が頻りに面会に来て下さり、ケアのことを相談しながら一緒に寄り添っていただける関係作りがある。
 ・アットホームな関係作りを目指しゆったりと過ごせる時間や会話を大切に毎日安心して過ごせるように取り組んでいる。季節ごとの行事なども積極的に取り組んでいる。
 ・採光豊かでゆったりとした空間設計の住環境の中で地域に根ざし気分を満たして生活して頂きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者が自治会役員として地域と関わり、長年母親の介護をした経験から自宅隣接に開設した2ユニットのグループホームである。理念が「人と共に」「地域と共に」を掲げ利用者が最期までゆっくりと暮らせるような「住まい」を目指している。近年の稀に見る風水災害に対し事業所では「停電、断水を想定した24時間ケア対応訓練」を実施している。非常時には近くのグループホームとの協力体制も構築している。職員の今年度の目標を「丁寧な言葉を使いましょう」と言葉の原点に振り返り、利用者や家族との会話を大切に安心して過ごせる関係づくりに取り組んでいる。中庭を取巻く建物の構造で、居住空間は採光豊かである。利用者はゆったりとした日々を過ごしている。住宅地域にあり、利用者に四季を感じる様に居間兼食堂の壁には大きく季節の絵と言葉を表示している。

wo

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」をスローガンとして毎朝礼時に読み上げ意識付けをしている	理念を玄関に掲示し毎朝の朝礼後に唱和している。理念実現に向け、各ユニットは今期の意識目標として「スローライフ」「一人ひとりに寄り添いの介護」を目につく所に掲げ、ゆとりを持ったケアの意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会祭り、民生ボランティアによるサロンへの参加を継続していて交流をはかっているが今年度はその回数は少なかった。	自治会に加入している。事業所代表が自治連の役員や民生委員の経験があり地域との関わりは大きい。地域への貢献テーマを検討している。機会がある毎に地域の行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の運営において地域サロンのようなことを行ないたい考えを検討しているも進捗状況は停滞している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も地震、台風による災害対策を中心とした取り組み報告により、災害時における対応見直しチェックを行っています。	2か月毎に開催し加算の説明、事故報告、身体拘束、自己・外部評価等の取り組み等を報告している。今年は「身近かな自然災害」を想定し新たな検討項目や課題など見出し意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大津市介護保険課とは、利用者の介護保険更新申請時や資料提出等折にふれ連携に努めている。	市の介護保険課とは介護保険に関する更新申請や加算等の相談と手続き、生活福祉課とは生活保護者に関する相談や指導を得ている。良い連携関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、定期的に委員会を開催しています。	身体拘束委員会を定期的に開催し、身体拘束の勉強会や研修を実施している。職員は身体拘束に繋がらないように改善事例を共有しケアにつなげている。徘徊時は近隣の商店街の協力を得る体制を整えている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を活用して、虐待防止についても取り組み、勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は2F利用者いないが、関係者の方と関わる機会は多々ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の場合必ずご家族に来ていただき、ご理解を得た上で話をすすめるようにしている。改定の場合は文書、電話両方にて確認、説明をさせていただきようとしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に行事や面会時等にて抽出して、職員会議にて報告して反映に努めている。時には面会時にご意見を伺うこともある	面会時や運営推進会議で意見や要望を聞いている。利用者と家族同伴の里帰りや映画館での映画鑑賞等の家族の要望を受け入れている。面会に来られない家族には電話での要望の聞き取りもしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職会議、ケア会議、その他の会議に代表者に意見や考えを聞いてもらう場を設けていただき反映するように努めている。会議まで待てないものなどは即日、管理者に確認を行ない実行、再検討に取り組んでいる	管理者はケース会議や日常のケアの中で職員の意見を聞き反映に努めている。ケース会議での活発な意見や提案で、職員が企画した手作り弁当でめったに来られない家族との交流を深めた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のケア会議に代表者も出席しているので確認の上、整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自己意識と職技能力高めるため、事業所としての年度目標と、現場職員から提示される目標を設定してトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度より利用者の生活機能維持、向上のために訪問リハビリステーションとの業務提携を実施を始め、関係業者との業務提携も増えてお世話になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は本人や日頃つながりのある方々（家族、介護サービス関係者など）直接お会いしてお話を伺い、利用開始後はそれを基に本人の何気ない会話より言葉、行動から本人の思いに寄り添うよう、笑いあえるように関係づくりに心を掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等は利用者本人を知ってもらいたいという思いと受け入れる施設のあり方を知りたいという思いがあることを念頭に気持ちを寄り添うように関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方と面談で当事業所を選んだ理由や、一番何を求めているのかを確認して対応に努めている。ケア対応で必要上、初期面接時より権利擁護事業所や医療的サービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自ら職員に「何か手伝いましょうか？」の気遣いや、笑い話をして楽しませていただくまでの関係を築くことで共に生活をする「家族」のような関係を目指して関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年度催す行事には家族の方をお招きし、家族の方と接する機会をさらに多く増やし、家族と職員が気軽に話し合えるような場面多くしてさらなる関係構築をしていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この件に関しては、ほとんどご家族の協力のもと自宅、自宅周辺の外出支援や、遠方からの親族の面会の実施にもなっている。	利用者と身元引受人は事業所近辺の人が多いため、近隣の人の面会、訪問美容、訪問看護、家族同士の知り合い等以前からの繋がりがあり、それぞれの協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の談笑される方が3名おられるため、その方達の周りに集まると、重度の方に対しても話かけて頂くこともありユニット全体がとっても賑やかです		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族様は事業所近所の在住者が多いのでばったり再会することあり、お互いの近況報告もすれば、事業所ボランティア活動や、古紙などのご寄付もいただくこともあり感謝しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人より日々の関わりの中での会話で希望、意向を導きユニット会議等で整理している。利用者自ら表現困難な方にしぐさ、態度、家族からの意見も参考にして関わっている。	日常的な関わりで聴き取り、ユニット会議で話し合い職員間で共有している。利用者の思いや意向は家族の情報や「私の暮らしシート、生活環境シート」で把握し、生活歴を尊重した対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面接での情報、入居後も利用者本人、ご家族もあれば、面会に来られたお知り合いの方や、馴染みのあったご近所さんより伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の表情、しぐさ、会話にも注意を払い具体的に記録に記載し、引継ぎ等の記録を確認、それをもとにユニット会議にて現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	目標達成後のさらなる課題や、新たな目標を探る要素を忘れないことを心がけることに気をつけてまいります。	「アセスメントシートやモニタリング記録」、家族、医師、訪問看護等の意見を基に全職員参加のケア会議で検討し作成している。介護計画は3か月毎に見直し状態変化あればその都度見直し家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の細かな変化も記録して、引継ぎに間違いがないよう伝えまわしていくチェック管理もして各職員の意見参考にして会議等でまとめ、その都度対応を変化させ介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や家族の要望をもとに行政関係者、医療関係者、訪問マッサージ、福祉用具、地域文化交流サービスと連携協力があって支援につながるケースもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	念願だった近所に食品揃ったドラッグストアができ地域資源は恵まれたので、外出支援の発展につなげていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在お世話になっている協力病院は臨時往診も応じてくれて大変感謝しております。状況により特別指示書による医療保険の訪問看護利用もスムーズに進めていただいています。	利用者17名が協力医をかかりつけ医とし1名が従来のかかりつけ医に家族対応で受診している。夜間の急変時には協力医院へ職員が付き添い対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医系列の訪問看護ステーションの看護師に来ていただいております。適切なアドバイス、対応の仕方をいただいております。また訪看より主治医との確認調整や勉強会も催してくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人的に見舞いに行く職員も多々あり情報交換を迅速に行なうようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より意思確認を何う書類を用意して把握している。命に関わる事項のため容態変化時に再確認、意思変更もある時はその都度変更している。	入居時に「事前指定書」「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し本人家族の承認を得ている。終末期の状況変化時は利用者、家族、医師が協議し、家族の同意と承認を得ている。看取りの研修と経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	動脈血酸素飽和度測定値の導入利用で利用者の呼吸が苦しそうな時の検査で初期対応が迅速にできるようになってきたが、AED装置もあるが、呼吸停止、心停止による対応は実践場面が少なくその場を経験している職員は少ないのが課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年の地震、台風天候により出愛荘での身近な災害は停電被害と想定し、今年度は停電、断水を想定した24時間通しての体験訓練を実施し、課題や対応策を検討しています。	停電、断水を想定した24時間のケア対応訓練と消防署立合いで、夜間想定避難訓練を実施している。非常時は近隣グループホームと様々な協力体制を整えている。3日間分の水と食料を備蓄している。	これからの自然災害に欠かせない訓練で、地域住民にも参加を呼びかけ継続していく事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度は利用者様への声掛けにも尊厳を持つように意識付けをするため、接遇マナーを振り返り、丁寧語使用における取り組みを実施中です	今年度は接遇マナーを振り返り「丁寧語を使いましょう」を目標設定している。内部、外部の研修を受けユニットの意識目標である「スローライフ」を基に「ゆとり」を持って介護する様に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より生活での自由度を大切に「～いたしましょうか？」と利用者の今の感情に沿うようにしている。会話できない方は視線、表情、しぐさ体調で判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体重度の利用者においては全てのことができるわけではないので歯がゆい思いを職員は持ちつつも、出来る限りの本人のペースを大切にと日々努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2F利用者において自分で好んで服を選ぶ方はあります。職員と相談して決めたり、本人任せによる重ね着される方には配慮もしている。理美容は近所の美容院に行くこともあれば、訪問してもらうこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対応できる方が今年は3～4名と増えていて、座りながら、立ちながらそれぞれの作業に関わっています。2Fにおいては家族も一緒になって参加していただく方もおられます	主に配食中心だが、週2回程は事業所で手作りしている。職員も介助しながら同じ物を食べている。利用者の誕生日には外食も含めて個別に対応している。後片付けを職員と一緒にする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大半の方はしっかりと食事、水分摂れているが、食べ方に特徴ある方にはそのリズム、食事形態、量を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に訪問歯科による対応も行ない、職員の口腔ケアの意識付けを強化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態、時間を記録にしてパターンを確認して時間を見計らってトイレ誘導を行っている対応で失禁率を少なくしているが、こちらからの声掛けにて対応していたく過程である。	失禁を少なくするため一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを逃さないようにトイレに誘導し、自立に向けて支援している。布パンツのみで過ごしている人もいる。3名が夜間ポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	これまでの対策対応を継続している中、今年度は訪問リハビリのリハビリ師よりアドバイスを取り入れた運動対応で対策強化も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるように入浴時にうたを歌ったり、談笑、身の上話の相談等の対応をしています。現在血圧、体温測定で通常より変化ある場合は見送るなどしている。目安として2～3日に1回の入浴対応である	週に2,3回午前中に入浴している。1階にはリフト浴があり、2階の介護度の高い利用者も入浴している。足のむくみのひどい利用者には足浴で対応している。嫌がる利用者が家族からの勧めで入浴出来たこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に利用者まかせの自由なところもあるが、重度の方には時間おきに一旦ベット横にさせて体を休ませる方もいる。エアコン使用の季節時の温度環境には気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を飲んでいるかファイルがあり、慎重に対応を心掛けている。急変時の追加薬、頓服薬には主治医、かかりつけ薬局にも相談対応を心がけるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日課作業、レクリエーションの関り強化も目標にしているの、充実した生活送ってもらうように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制が整えば外出支援して、利用者の反応が最も好評的である。ドライブでの遠出の機会も提供している。	良い天気には外出のタイミングをはずさないようにし、近くのドラッグストアや神社を散歩している。ドライブで遠出する機会を提供している。屋外で外気浴を楽しむ利用者や迎えの家族と家に帰り夕食を自宅でする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者出愛荘による完全管理で行っている。中には個人で自身の財布、小銭程度はあり、手元にあるだけで安心を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を持参されている方もいて自ら連絡したり、事業所からはお便りを通じて様子を伝えたり、ご家族からの手紙がきて利用者に渡したり、返事を希望する時は準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、屋内廊下、リビング、階段廊下などまでに日々の写真、月替わりのきりえなどのアート作品、季節柄に雛人形、クリスマスツリー等も並べます。	リビングは広く明るく季節を感じる庭が見える。対面式のキッチンを配し、壁には写真や家族の手作り品を飾っている。寛ぐ場として畳コーナーがある。空調設備、除菌タイプの空気清浄器等を備え、心地よい空間である。トイレ、風呂場は掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士、リビング⇄居室間の自力移動しやすい生活導線に配慮と様々な理由からテーブル配置、ソファ位置を決めていて、そこから自ずと利用者まかせの雰囲気でも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使い慣れた生活用具、仏壇等も持ち込みをご家族にお願いして自宅に近い雰囲気でも生活していただけるよう努めている。また行事や面会時の写真を飾り楽しんでいただく施しもしています	居室の床はフローリングで絨毯を敷いている所もある。電動ベット、エアコン、換気扇、湿度計、クローゼットを備え付けている。思い出の物を持ち込み居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には名札と顔写真をつけて自分の居室である自覚をされたり、ベットの高さや位置、物の配置を各個人が安全で使いやすいように考えて、状況に応じてその都度変更も応じている。(立ち上がりや歩行の転倒がないように配慮)		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	停電、断水時の災害時のケア対応の準備(被災時において避難・搬送方法をどのように行なうかも兼ねる)	停電、断水時に愛荘自助でケア対応できるようにしていく(利用者にケガなく安全な搬送方法を見出す。)	停電、断水時を想定した24時間訓練を定期的に継続する。この訓練により緊急時必要な装備品等も取り揃えていく。(2階から1階へおる時の利用者にケガなく安全な搬送方法をマニュアル定着するものがあるが、更により良い搬送方法を再検討もしていく)	12ヶ月
2	36	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉遣い、接遇マナーの向上していく。	職員のマナー接遇、特に言葉遣いに関して現状を振り返り、「～です。」「～ます。」の丁寧語を身につくようにトレーニングを実施する。	12ヶ月
3	48	利用者の日々の生活に笑顔や楽しく過ごしてもらいたい	現状生活から更なる充実感を達成し、利用者の日常生活機能の維持、向上にも繋げていく。	定期的なレクリエーション、体操等での関りをもとにしてに、訪問リハビリステーションのリハビリ師の助言、評価もいただき更なる対応を行っていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。